

特集:バスケットボール・ジュニアNBA 世界へジャンプ、「日本チーム」精鋭12人

◇中学1・2年生で編成、「日本チーム」発足

◇2度の実技審査クリア 合宿後、来年「本場」へ

バスケットボールの男子中学1、2年生の選抜チームが、アメリカで同年代のチームとの親善試合に挑む「JOMOバスケットボール ジュニアNBA日本チーム」が発足した。8月に行われた2度の実技選考会によって12人のメンバーが決定。今後はチーム作りを進め、来年1月ごろにアメリカへ乗り込む。日本のジュニアがバスケットの本場でどこまで通用するか。12人の中から将来のNBA選手も誕生するかもしれない。日本で初の試みとなるプロジェクトには、たくさんの夢が詰まっている。【石井朗生】

◆Jr. NBAとは

◇プレーの上達とともに、スポーツマンシップ重視

ジュニアNBAは、世界最高峰のバスケットボールリーグであるNBA(米プロバスケットボール協会)が、01年から社会貢献活動の一環として取り組んでいる子供向けのプログラム。アメリカ各地や欧州、中国などでも実施されている。日本でも今年からジャパンエナジー(JOMO)の主催により展開されることになった。

プログラムの内容は、基礎技術を指導するクリニックや、大会の開催など、子供たちを対象にしたバスケットボール関連の取り組みが幅広く対象になる。プレーの上達だけでなく、チームワークやスポーツマンシップも重視。バスケットを通じて心身ともに成長することを目指している。

日本では中学1、2年生を対象に、「ジュニアNBA日本チーム」を編成。アメリカで同年代のチームとの親善試合を行ったり、NBAの試合を観戦して高いレベルのバスケットを学ぶ。このほか、訪問地の街を見学して市民生活にも触れるなど、国際交流や異文化体験の機会も設け、12人のメンバーが世界との親近感を得られる内容が検討されている。

9月から12月までは1泊2日の強化合宿を4回実施。ヘッドコーチを務めるアトランタ五輪代表の萩原美樹子さん、アテネ五輪代表の大山妙子さんらJOMOバスケットボールクリニックのコーチ陣により、チームの戦術を磨くとともに、仲間との連携や助け合い、自身の持ち味のアピールなども積極的にできるよう指導が行われる。将来的には女子チームの編成や、首都圏以外での選考会実施など、さらに幅広い展開も検討されている。

◆選考会

◇246人参加、積極的にアピール

ジュニアNBA日本チームに参加する選手を選抜する選考会は、第1次が8月24日に埼玉・所沢市民体育館、第2次が8月30日に東京・駒沢体育館で行われた。全国から応募した246人が参加。萩原美樹子委員長ら、審査委員を務めるJOMOバスケットボールクリニックのコーチ陣が見つめる前で、それぞれに技術や持ち味をアピールした。

第1次では、2人1組となって基礎的なシュート技術を見せた後、5人ずつで即席のチームを組んでゲー

ム形式の審査に臨み、62人が第2次選考会に進んだ。第2次では、1on1、2on2、8分ハーフでのゲームなどさまざまな形式の実技審査に加え、1人1分間の自己アピールタイムが設けられ、スピーチなどで思い思いに自分の持ち味を披露。最終的に選ばれた12人が晴れのユニホームを受け取った。

ほとんどの参加者にとって、大勢の中でプレーをして評価を受けるのは初めての体験。しかも技術の精度だけでなく、他の選手へ積極的に声をかけられるか、自信を持ってプレーしているかなどもチェックされるとあって、会場内には緊張感も張り詰めた。それだけ厳しい審査の中でもしっかりと実力を発揮した12人には、「日本代表」にふさわしいプレーや、今後のさらなる成長も期待される。

◆NBAとは

◇米・カナダ計30チームで熱戦

1946年に創設されたプロバスケットボールリーグ。アメリカとカナダの計30チームが、毎シーズン10月から4月までのレギュラーシーズンと、上位16チームによる6月までのプレーオフを争う。05～06年シーズンはマイアミ ヒートがファイナルを制した。同シーズンにはアメリカ、カナダ以外からも36カ国・地域の選手がプレー。関連番組も215カ国、43言語で放送され、世界的な規模のリーグとなっている。リーグとしてボランティアや途上国支援、子供たちの教育など、社会貢献活動も積極的に展開。年々充実している。

◆萩原美樹子ヘッドコーチ

◇日本人選手で初、WNBAでプレー

ジュニアNBA日本チームのヘッドコーチは萩原美樹子さん(36)が担う。日本代表の主力として96年アトランタ五輪で7位入賞。日本人で初めてアメリカのWNBAでもプレーした。

萩原さんは今回の選手の選考で、技術だけでなくバスケットボールに取り組む姿勢にも注目。参加者には「バスケットはコミュニケーションの競技。積極的に声を出すことを日ごろから実践してほしい」と呼びかけた。今後の合宿などでも、仲間を尊重したプレーなどを求めているという。

自身がアメリカでプレーした経験は生き方にも影響したという。選ばれた12人にも、多くの物を得てほしいと期待。「バスケットに関することだけでなく、異文化にも触れる貴重な機会。中学生ならではの目や感性で世の中を見てほしい。私もその力になりたい」と、今後の活動に意欲を見せている。

=====

◇ジュニアNBA日本チーム・メンバー

氏名	年齢	学校・学年	身長	ポジション
----	----	-------	----	-------

牧全	(14)	愛知・西尾中2年	170センチ	PG
----	------	----------	--------	----

※ドリブルは誰にも負けない。合宿では自分の下手な部分を上手にしたい

加藤悠三	(13)	岐阜・中津川一中2年	170センチ	SG
------	------	------------	--------	----

※外からのシュートが得意。カットインからのシュートを学びたい

中村滉平	(14)	神奈川・岩崎中2年	180センチ	F/C
------	------	-----------	--------	-----

※得意のリバウンドと外からのシュート、ドリブルなどをがんばりたい

渡辺祐人(14) 愛知・平坂中2年 172センチ F

※ジャンプシュートが得意。上手な体の使い方を習得したい

中村一海(13) 神奈川・菅中1年 176センチ F

※米国のプレイスタイルを学び、自分との間にどれだけ差があるか知りたい

杉本健将(14) 熊本・玉名中2年 172センチ G

※ボール運びは自信。いろいろなことに挑戦してうまくなりたい

大石タ貴(14) 千葉・鎌ヶ谷中2年 181センチ C

※ゴール下で相手を背負ったら負けない。他のポジションの動きも学びたい

佐野隆司(14) 茨城・土浦一中2年 182センチ F

※ジャンプシュートやリバウンドに自信。アウトサイドのプレーもがんばる

岡本飛竜(13) 鳥取・東山中1年 153センチ PG

※カットインが得意。たくさん声を出してコミュニケーションを取りたい

岩田涼太(14) 神奈川・金旭中2年 182センチ F

※1対1でも米国選手を抜けると思う。パワーやシュート力をつけたい

千葉俊一(14) 神奈川・大野南中2年 168センチ PG

※3点シュートに自信。米国選手のプレーを見ていろいろ学びたい

梶亮太(14) 千葉・ちはら台南中2年 171センチ PG/SG

※カットインとその後のパスが得意。米国で負けないスピードをつけたい

■PG=ポイントガード、SG=シューティングガード、F=フォワード、C=センター

=====

■今後の日程■

9月23～24日 強化合宿

10月21～22日 //

11月18～19日 //

12月 9～10日 //

1月初旬 アメリカ訪問

(親善試合、NBA観戦など)

毎日新聞 2006年9月9日 東京朝刊

Copyright 2005-2006 THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

MSN毎日インタラクティブに掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

(C) 2006 Microsoft